Coleman® Lantern
取扱説明書

保証書付　保証書は、この取扱説明書の裏表紙についています。

Feather™ Lantern
Model 229

⚠ 警告

1. この器具は屋外専用です。使用中は多量に酸素を消費します。屋内、車内、テントの中もしくは換気の悪い場所では使用しないでください。
2. コールマン純正ホワイトガソリンは発火点が低く大変危険です。火気からは１m以上離して使用し、取扱いには充分注意してください。
3. 可燃物、引火物の近くでは使用しないでください。
4. 燃料の給油及び点火作業の際にはまわりに火気のない、換気の良い場所で行ってください。室内、車内等換気の悪い場所、火の気のそば及びくわえタバコ等での作業は絶対にしないでください。
5. 使用中もしくは消火後の燃料タンクが熱せられている時は、絶対に燃料キャップを開けたり、給油作業をしないでください。

⚠ 注意

1.使用する前に必ず取扱説明書をよくお読みください。
2.この器具は屋外専用照明器具です。その他の目的に使用したり改造したりしないでください。
3.燃料はコールマン純正ホワイトガソリンをご使用ください。非常時には、自動車用無鉛ガソリンも使用できますが、無鉛ガソリンを連続使用すると、ジェネレーター内部が詰まり、交換が必要となります。
4.燃料は火気の近く、湿度が高い、高温な車内等温度が40度以上になる場所には保管、放置しないでください。
5.使用中や使用直後は、グローブ、ベンチレーターなどの部分は高温になっていますので手を触れないでください。やけど等の原因になります。
6.テント、スリーピングバッグ、衣類等の燃えやすい物からは、上部1.2m以上、左右50cm以上 離してお使いください。
7.子供、幼児の手の届く所に置かないでください。
8.専用の付属品以外の物を使用すると本体部分が変色したり、思わぬ事故になることがありますので使用しないでください。

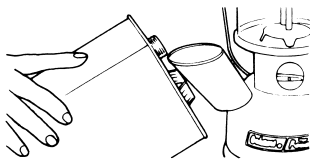
純正燃料

アメリカコールマン本社の、分析表をもとに精製した、高純度ホワイトガソリン。

4ℓ

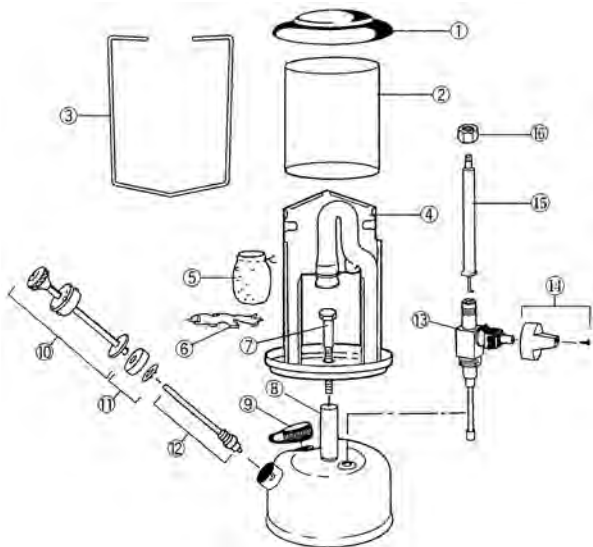
1ℓ

失敗しない燃料注入方法

新しい4リットル缶からこぼさない注ぎ方は、注ぎ口を上にして缶の中に空気が入りやすくすると、簡単に入れられる。

注ぎ口を上にして、この角度から入れるとこぼさない。

目　次

ランタン各部の名称と役割

229ランタン　分解図とパーツリスト

パーツNO.	英語名	パーツ名
①222Y4851	Ventilator	ベンチレーター
②R136-048J	Glove	グローブ
③226-4211	Bail	ベイル
④222-3265	Burner Assy.	バーナー一式
⑤#20	Mantle	マントル
⑥5414-4605	Heat Shield	ヒートシールド
⑦321-6031	Frame nut	フレームナット
⑧222A4291	Base Rest	ベースレスト
⑨222-1401	Filler Cap	燃料キャップ
⑩400E5211	Pump Plunger Assy.	ポンププランジャー一式
⑪R216-111T	Push on Nut & Pump Assy.	プッシュオンナット、ポンプカップ（ゴム）
⑫400-6381	Check Valve & Stem Assy.	チェックバルブ＆ステム一式
⑬226B6571	Valve Assy.	バルブ一式
⑭226A4901	Knob & Screw	ノブ＆スクリュー（ネジ）
⑮222A2991	Generator	ジェネレーター
⑯288-1621	Jamb Nut	ジャムナット

表示の価格は2004年1月1日現在のものです。価格、組み合わせは、予告なく変更することがあります。

ガソリンタイプ燃焼器具の基本的な仕組み

正確で力強いポンピングによる空気圧が最大のポイント

コールマンの、ガソリンを燃料とする燃焼器具は、すべての共通システムになっている。

①ポンピングで、燃料タンク内に空気圧を加える。

②燃料バルブの操作で、圧力のかかった燃料が空気と一緒に、噴霧状になってジェネレーター内に送られる。

③バーナーやマントルの燃える熱で、ジェネレーター内部を通る燃料が気化される。

④気化された燃料が、大気中の酸素と混じりあって燃えるので、ススの出ない地球環境にやさしい、クリーンな炎で燃焼する。

空気圧不足が燃焼不良の原因

燃焼不良の原因のほとんどが、空気圧不足。必ず固くなるまで強くポンピングし、連続使用する場合は、頻繁にポンピングする。

高い空気圧が強火力の秘訣

ジェネレーター内に送りこまれる燃料が、噴霧状になることが気化させるポイントとなる。空気圧が高いほど勢いよく押し出され、噴霧状になりやすく気化しやすい。したがって、空気圧が高いほど点火操作も簡単で、効率よくきれいな燃焼が得られる。

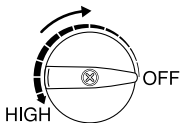
燃料は純正ホワイトガソリン

燃料は純正ホワイトガソリンを使用してください。非常時には自動車用無鉛ガソリンも使用できますが、無鉛ガソリンを連続使用するとジェネレーター内部が詰まりやすくなり、交換が必要となる場合があります。

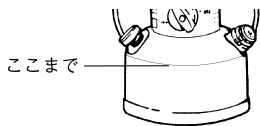
修理　ランタンの修理は、グローブとベンチレーターをはずし、燃料を抜いて、保証書と一緒に、お買い求めの販売店にご依頼ください。

1 燃料を入れる

⚠ 必ず、アウトドア（屋外）の火気のない所で行ってください。

①燃料レバーを右に止まるまでまわす。

②ポンプノブを、右に止まるまでまわす。

③燃料キャップをはずす。

④ランタンを水平に置いて、注入口からあふれない位（8分目程度）に燃料を入れる。

⑤燃料キャップを、固めにしめる。

燃料満タンの目安

ガソリンフィラーを使った場合

①ランタンを水平に置き、ガソリンフィラーを正確に押し込み、燃料を入れる。

②缶から燃料が入らなくなったら、注入をストップ。ちょうど満タンの量になる。

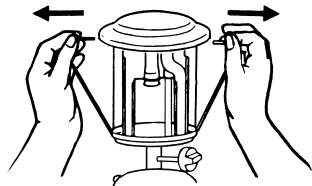
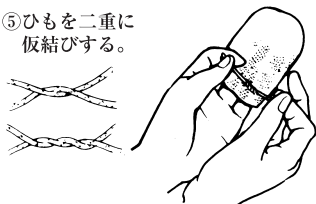
⚠ 本製品にフューエルファネルを使って燃料を入れる場合、燃料注入後にファネルを燃料タンクから持ち上げたときに、ファネル内の余ったガソリンがファネルの注ぎ口からこぼれます。燃料タンク内の注油量を目視で確認しながら燃料を入れてください。

⚠ 燃料の入れ過ぎに注意

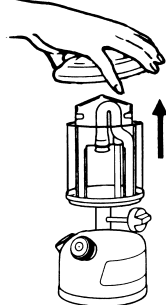
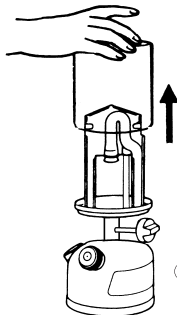
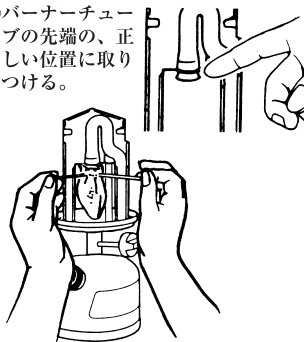
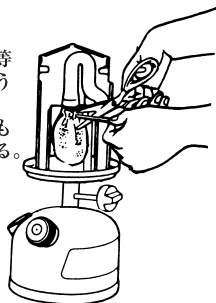
燃料を入れ過ぎるとポンピングにより加圧するスペースがなくなり、液状のままのガソリンがバーナー部に放出され、不完全燃焼の原因になります。また、燃料が少な過ぎると炎が途切れたり、不安定な燃焼になります。

2マントルをつける

必ず、コールマン純正マントル(20型)をご使用ください。

①ベイルを左右にひろげてはずす。

②ベンチレーターをはずす。

③ガラスグローブを抜きとる。

④あらかじめ、指先にて袋状にふくらませる。

⑤ひもを二重に仮結びする。

⑥バーナーチューブの先端の、正しい位置に取りつける。

⑦しわが均等になるように整えて、余ったひもは切りとる。

3ポンピング

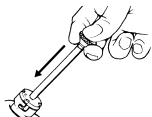
タンク内に空気圧を加えます。

①燃料バルブを右に止まるまでまわす。

②ポンプノブを左に2回転させる。

⚠ 堅くて回らない時はプライヤー等で左に回してください。(特に新品購入時は堅い場合があります。)

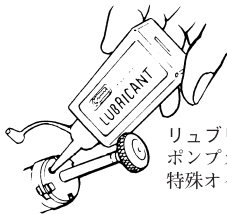
③親指でポンプノブの穴を押さえ、人差し指と中指を添える。

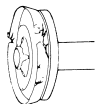
④手前に引いて、奥まで押しこむ正確なストロークを繰り返す。

⚠ ポンピング時に引っかかり等を感じる場合はリュブリカントを注入してください。

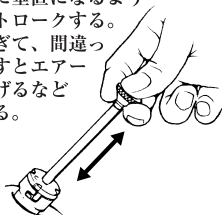
⑤40〜50回以上ポンピングし、固くなって指の力で入らなくなったら、ノブを押しこんで右に止まるまで回す。

□ポンピング操作上の注意□

⚠ ポンプカップの乾燥

ポンプカップが乾燥していると、ポンピングしてもひっかかる感じや軽すぎる感じで、空気が入らない。ポンプキャップの「OIL」と表示のある穴から、リュブリカントを2〜3滴注入する。

リュブリカント
ポンプカップ専用
特殊オイル

⚠ 乾燥した状態で無理にポンピングすると、ポンプカップがめくれるなど、破損の原因となります。

⚠ ポンピングは正確に

燃料タンクに垂直になるように正しくストロークする。力を入れ過ぎて、間違った方向に押すとエアーステムを曲げるなどの原因となる。

⚠ ポンピング時は、引き過ぎに注意

ポンピングをする際、手前に引く時は8分目位の所までとし、最後まで引っ張らないこと。引っ張り過ぎるとプッシュオンナットが外れ、ポンププランジャーが外れる場合がある。外れた場合はP.15の組み立て方を参照してください。

4カラヤキをする

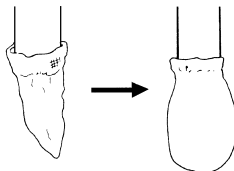
点火の前に、燃やして灰状にします。

取りつけたマントルは、点火前に燃料を出さないで燃やし、灰状にする。
これをカラヤキという。

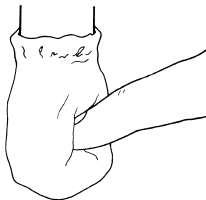
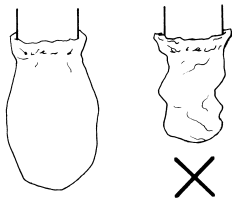
①取りつけたマントルは、約7.5cmの長さ。

②マントル下部から均等に火をつけて、完全に灰状になるまで燃やす。

⚠途中で火が消えて火をつけると穴があく場合があります。必ず最後までカラヤキしてください。

③カラヤキしたマントルは、約5cmに縮んで小さくなるが、点火すると丸みを帯びた形にふくらみ、形状を保つ強度がでる。

カラヤキ後　　点火後

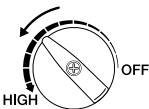
カラヤキ時の注意

カラヤキしたマントルは、もろくなり強い衝撃や指先でも簡単に破損する。

カラヤキの途中やカラヤキしないで点火すると、縮みが激しく、いびつな形状で小さくなる。必ず、完全にカラヤキしてから点火する。

片寄ったカラヤキは、マントル破損の原因になる。下部から均等に火をつける。

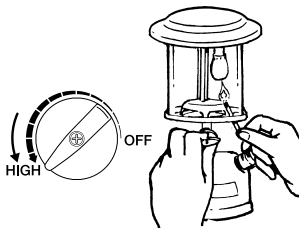
⚠風の強いところで作業するとマントルを破損する恐れがあります。

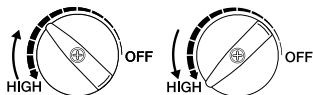
⚠マントルは消耗品です。常時予備のマントルをご用意ください。
穴のあいたマントルをそのまま使用するとグローブの破損または異常過熱の原因となります。

5 点火・光量調節

①燃料バルブを左に少しまわしシューという音から燃料の出るジッジッという音に変わるまで待つ。

②燃料の出る音に変わったら、燃料バルブをOFFにもどし、約10秒間おいて生ガスをにがす。

③マントルの破損に注意しながら再度充分ポンピングする。

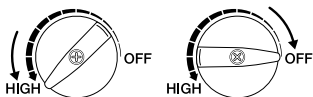
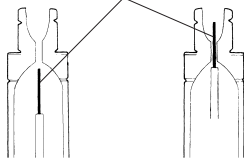
④フレーム底部の穴から、柄の長いライターなどの火を入れ、燃料バルブを「HIGH」にセットすると点火する。

⑤点火直後、さらに充分ポンピングする。

⑥明るさの調節は燃料バルブで。

点火時の注意

⚠ 炎は上にあがるので、点火するときは、ランタンの上にかがみこまない。

⚠ 必ず、火を入れてから燃料つまみを開いてください。先に燃料つまみを開くと不完全燃焼の原因になります。

⚠ マントル以外から炎が出る場合は燃料の出すぎか燃料漏れが原因。燃料バルブを「OFF」にもどし消火後、再度取扱説明書をよく読んで、正しい手順で点火操作を行う。

⚠ 正確な操作で点火しても、ついたり消えたりして安定しない場合は、燃料バルブを「OFF」と「HIGH」の間で、素早く2〜3回往復させる。ジェネレーター内部のクリーニングロッドが上下し、ジェネレーター先端の小さな穴を掃除して、燃料の通りをよくし、すぐに安定した炎に変わる。

6 消火

①燃料バルブを「OFF」にセットする。

②ジェネレーター内部に残っているガスがなくなるまで燃えるが、しばらくすると消える。

7 収納・保管

⚠ ランタン本体が完全に冷えてから、プラスチックケースに入れる。

①車のトランクなどで運ぶ時や、使用後に保管する場合、短期間であれば燃料を抜き取る必要はありませんが、空気圧は抜いてください。空気圧は燃料キャップを徐々に緩めると抜けます。

②シーズンオフ等で長期間（半年以上）保管する場合は、燃料を完全に使いきって、タンク内を空にしてください。完全に燃料を抜く場合は別売りの「残ガス抜き取りポンプ」を使うと便利です。

③ガラスグローブを破損して持ち運ぶ時は、ダンボールなどの厚紙をまいて、バーナー部を保護する。

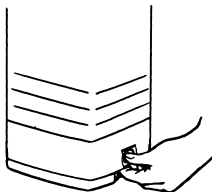
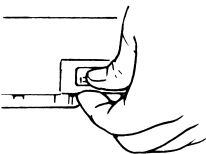
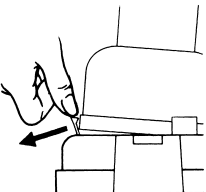
④幼児、子供の手の届く所に保管しないでください。

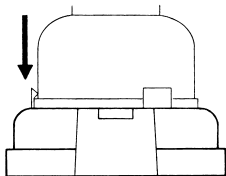
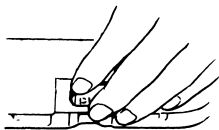
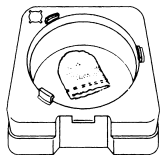
⚠ 器具を収納・保管・運搬する場合は、火気の近く、湿度が高い、高温な車内等温度が40度以上になる場所には収納・保管しないでください。

プラスチックケースの取扱方法

取り出し収納とも、両手で左右同時に行う。

取り出し方

①両手の親指を底部のロック用の爪に当て、人差し指と中指をふたの縁に添える。

②ふたを外側に広げるようにして、ロックをはずす。

③ランタン底部を固定している3つの爪を親指でひとつずつ、外に広げるようにしてはずす。

収納方法

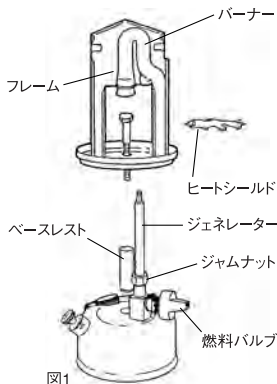
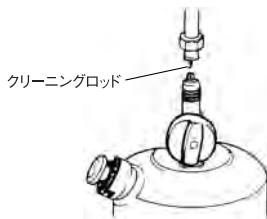
①ランタンを底のくぼみに合わせ3つの爪にひっかかるまで押し込む。

②ふたにあるロック用の穴を、底部の爪に合わせ、穴の下の縁を両手の人差し指で内側に押し込み、ロックする。

ケースの底部のくぼみは、マントルなど予備のパーツを収納できる。

チェックバルブ機能の点検

⚠ ポンピング操作直後に点検する。ポンプノブ先端の穴から燃料が吹きでる場合は、チェックバルブ機能不良。空気圧を抜いて修理に出す。
チェックバルブの交換には、専用工具が必要。お買い求めの販売店にご依頼ください。

8メンテナンス　ジェネレーター交換の手順

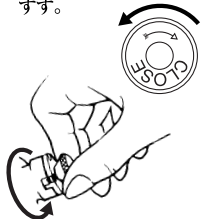
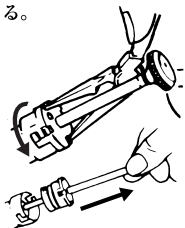
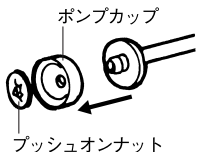
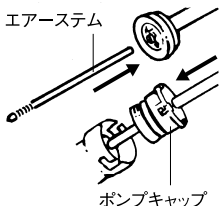
点火しにくい、いつもより暗い。
このような場合は、ジェネレーター交換してください。

⚠ 必ず、火気のない所で行ってください。

①燃料キャップをゆるめ、タンク内の空気圧を抜き、再び燃料キャップをしめる。
②燃料バルブをOFFにセットする。ベイル、ベンチレーター、グローブ、ヒートシールドをはずす。
③フレームセンターのフレームナットをはずし、バーナー一式とベースレストを抜きとる。
④ジェネレーター下部のジャムナットをゆるめ、ジェネレーターを持ち上げ、クリーニングロッドをはずし、ジェネレーターをはずす。
⑤ジャムナットを新しいジェネレーターに差し込む。
⑥クリーニングロッドをバルブ先端の穴に引っかけ、「HIGH」に回す。
⑦クリーニングロッドを曲げないようにジェネレーターを下にゆっくりおろす。
⑧ジャムナットを燃料漏れのないようにしっかりしめ、燃料バルブを「OFF」に戻す。
⑨ベースレストをもとに戻し、バーナー一式の開口部にジェネレーター先端を差し込んでセットし、フレームナットをしっかりしめる。
⑩元どおりに組み立て、マントルが破損していたら交換する。
⑪ジェネレーター交換後、点火操作を行い、燃料漏れがないか確認する。

ジェネレーターは消耗品です。常時、予備のジェネレーターをご用意ください。

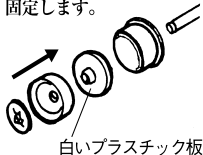
ポンプカップ交換の手順

⚠ ポンプカップ破損、損傷または外れた時は、ポンピングしても空気が入りません。ポンプカップを交換するか、再度組み立て直してください。

①ポンプノブを左に10回転以上回し、チェックバルブからエアーステムをはずす。

②ラジオペンチなどで、ポンプキャップを左にまわし、ポンプノブを抜きとる。

③ポンプカップを固定している、プッシュオンナットをはずし、損傷したポンプカップを取りのぞく。

④ポンプカップにリュブリカント（専用特殊オイル）をつけ、エアーステムをポンププランジャーの中に入れ、ポンプノブをセットする。

⑤ポンプキャップを固定する。

⑥ポンプノブを右に止まるまでまわして、交換完了。

ポンププランジャーの組立て方法

⚠ ポンプカップが外れてしまった場合は、ポンプキャップを外すと中にエアーステム、白いプラスチック板、ポンプカップ、プッシュオンナットがシリンダー内に残っているはずですので、それを取り出す。エアーステムは左に10回転以上回すと取れます。
ポンプキャップ、白いプラスチック板（向きに注意）、ポンプカップ、プッシュオンナットの順で組み立て、固定します。

⚠ ②の段階で、エアーステムに曲がりがないか確認し、変形していたら交換してください。

⚠ エアーステムが曲がっていると、ポンピング操作が固くなり、チェックバルブ破損の原因になります。

常時、ポンプリペアキットの携行をお勧めします。